カブ通信
～東北地方太平洋沖地震
スカウトスピリッツを発揮しよう！～

Ｎｏ：６　平成２３年　３月２２日発行
川崎第４６団カブスカウト隊
発行責任者：久保井隊長、執筆：北村副長

未曾有の大震災

～平成２３年３月１１日～

大震災から２週間になろうとしています。連日テレビや新聞で報道されている被災地の状況には言葉が出ず、自然と涙が溢れてしまいます。保護者の皆様も同じ気持ちであると思います。M9.0 という想定を超える大地震、東北から関東の太平洋沿岸を襲った大津波、そして原発の放射能。これだけの広範囲に渡る被害であるために、復興への道はとてもとても長く要するでしょう。

ボーイスカウトにおいても既に各地で街頭での募金活動が行なわれており、ＨＰなどで報道されています。１９日の団会議（全部の隊のリーダーが出席して、活動に関する協議・調整を行う会議）において、団委員長からも、「被災地の状態を鑑みれば、長期に渡る支援が必要であり、迅速に行わず、ボーイスカウトとして継続的に活動を行っていくことが大切である。スカウト教育をしていきたい。」と発言がありました。あるスカウトは、今から被災地に向ってボランティア活動をしたいと、隊からの報告はありましたが、今できることを行っていく、何よりも、スカウト自らが考えて、他に迷惑をかけずに行う活動こそ意味があると考えます（ボーイスカウトは社会に貢献できるスカウトを育成する教育を目的としています）。

昨今のスカウト活動は本来の自発活動がなかなか実践できていない課題を抱えており（例えば班の活動が活性化されない等）、こうした機会にそれぞれの年代に応じた活動を取り戻したいものです。

さて、２０日に行った組集会に直接出向き、スカウトに震災の話をしました。計画停電や一部の買占めによるスーパーの品薄状態、ガソリン不足など、とても不自由な生活を送っていますが、被災地では、一日おにぎり１つ、水がでない、お風呂に入れず、着替えもできない状況を考えれば、君達は幸せなことである。家を津波で流され、あるいはかけがえのない家族を一瞬で失った悲しみを感じることが大切である。カブスカウトとして、カブ隊のさだめにある、「カブスカウトはたがいに助けあいます」の実行を毎日続けていこうと話しました。

最初に、今すぐにカブ隊や団の活動で出来ることは何か、尋ねたところ、数人のスカウトから、「募金をしたい」との声を聞きましたので、団全体で募金活動を行うようにリーダーで調整をすると伝えました。

また、日頃の生活の中で、被災地を助けるために、僕（私）が毎日できることを実際に考えてくることを伝えました。家庭で、保護者とスカウトで話し合って下さい。そして、今から実践をさせて下さい。スカウトにはたった一つでも良い、例えば、寒ければ１枚セーターを着て暖房を控える、暖房温度を下げる、水を流し続けない、物を大切にする... 大事なことはカブスカウトとして、まじめにしっかり、カブ隊のさだめを守ることです。すすんでよいことができるよう、保護者の支援もお願いします。１２月の父母会で配布した『おきて指導の手引き』をぜひ一読願います。薄い冊子であっても内容はとても濃く、そして重く、私自身は反省を繰り返している日々が続いています。指導者だけが読めばよいものではなく、様々なヒントが散りばめられていますので、子育てにも役立つと確信しています。

来月から行う募金活動においても、ボーイスカウトの存在が社会により良く認められる存在になるように願うばかりです。社会とのつながりや信頼の一つは、シンボルの“制服・ネッカチーフ”です。制服をスマートに着こなし、カブキャップを被り、また、行いや言葉使いにもスマートであるようにスカウトの指導を進めていきます。

“安全は全てに優先する”と言われ、いうまでもなく、スカウト活動の安全には今後とも十分に配慮・注意していきます。確かな情報を的確かつ迅速に把握して、安全に万全を期したいと思います。

この度、日本連盟のそなえよつねに保険に加え、保護者の皆様にもスポーツ安全保険に加入するお願いをしたのもそうした自分の安全は自分で守る原則に照らしたからです。

大震災に係る今後の募金活動

団の活動として次のとおり行います。保護者の皆様もぜひご参加下さい。街頭募金の際には、必ずチーフの着用をお願いします。

☆街頭募金☆

登戸、遊園（南・北）、生田（南・北）、ランドの各駅
４月３日(日)及び６月５日(日)10 時から 12 時まで

☆募金箱設置☆

４月１５日（金）賛助会・ＯＢＳ懇親会
４月１７日（日）発団４０周年記念団ラリー
６月１９日（日）発団４０周年記念式典

◎募金寄贈先・・・日本赤十字社